

野外活動プログラム

活動名	(12) グリーンアドベンチャー			
内容	コース内にある指定された 30 種の樹木を、コース図を頼りに探していきます。見つかったら、その樹木の名称を考え、解答用紙に記入します。樹木の側にある解説プレートやガイドブックを参考にします。どうしてもわからない場合は、その樹木の様子から名称を付けてもよいでしょう。このような活動を通して、その樹木の特徴や他の生き物とのかかわりを発見していきます。			
条件	場所	自然の家 所内全域	対象	小学生以上
	時間	1 時間～1.5 時間	人数	1 グループ 6 人程度以下
	時期	通年 (季節によって樹木の様子は変化します)	天候	小雨可
期待される教育効果	(1) 自然の中で仲間と楽しみながら親睦を図る。 (2) 自然を理解し、樹木と人間とのかかわり、自然の大切さを学習する。			
準備物	自然の家が貸し出す物		団体が準備する物	
	<input type="checkbox"/> 無線機 <input type="checkbox"/> コース図 <input type="checkbox"/> 鉛筆 <input type="checkbox"/> バインダー <input type="checkbox"/> ガイドブック <input type="checkbox"/> 解答用紙, 解答シート		<input type="checkbox"/> 動きやすい服装 (長袖、長ズボン、運動靴) <input type="checkbox"/> 水筒 <input type="checkbox"/> 帽子 <input type="checkbox"/> 雨がっぱ(雨天時) <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 時計 <input type="checkbox"/> 救急用品 <input type="checkbox"/> 軍手 (必要に応じて)	
展開	<p>1. 事前 (準備)</p> <p>(1) 事前の下見を行い、危険箇所や所要時間等の把握をする。</p> <p>(2) 自然の家職員と安全管理方法について打合せをする。 ①危険箇所に引率が立ち、エリア内で活動する。 ②各班に 1 名の引率者がつき、班活動をする。</p> <p>(3) 当日の天候を見て、自然の家の職員と相談の上、実施の判断をする。</p> <p>2. 活動</p> <p>(2) 安全指導を受ける場所に集合し、点呼及び健康観察を行う。</p> <p>(3) 安全指導 (安全面に関する注意と、ルールやマナー等) を受ける。</p> <p>(1) 代表者は、自然の家職員から安全指導時に貸出物品を受け取る。</p> <p>(4) グループごとに最初に探すポイントを変えて出発させる。</p> <p>(5) 休憩は多めにとり、水分補給、健康観察を都度行う。</p> <p>(6) 事故や行方不明が出た場合は、ただちに自然の家に無線連絡を行う。</p> <p>(7) ゴール後、引率者は解答をチェックする。</p> <p>(8) 傷病者が出た場合は、ただちに自然の家に無線連絡を行う。</p> <p>3. 事後 (片付け)</p> <p>(1) 自然の家に全グループが帰着後、集合し、点呼及び健康観察を行う。</p> <p>(2) 靴の泥を落とし、必要に応じて更衣をする。</p> <p>(3) 代表者は事務室に無線機、貸出物品を返却する。</p>			
安全管理ポイント	<input type="checkbox"/> 実施の可否は、自然の家職員と相談の上で決定する。 <input type="checkbox"/> 各グループに 1 名の引率者がつき、後方からグループの様子を観察しながら同行するのが望ましい。引率者の人数に余裕がない場合は、引率者を要所に配置する。参加者には、引率者がどのポイントにいるかを伝え、緊急事態が発生した場合は、そこに行くようにする。 <input type="checkbox"/> 引率者は無線機や携帯電話で連絡が取れるようにする。 <input type="checkbox"/> 蛇や蜂、猪などの危険動物や危険植物に注意する。 <input type="checkbox"/> 単独行動は絶対にしないよう指導を行う。 <input type="checkbox"/> けがや体調不良で動けない者が出た場合は、団体の救護車で搬送するか、自然の家に連絡し、指示された場所で待つ。 <input type="checkbox"/> 他団体が活動中の場合、活動に支障がないようにさせる。			

<p>安全な活動のための準備</p>	<p>1. 服装、装備</p> <p>(1) 長袖、長ズボン、帽子の着用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然の中での活動は、夏でも長袖、長ズボン、防止が基本です。肌の露出は控えましょう。 <p>(2) 運動靴と靴下を着用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履きなれた運動靴を履きましょう。脱げやすいものや底がつるつるのものは滑りやすく危険です。 ・足が固定されるように厚手の靴下を着用しましょう。 <p>(3) 雨具の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山の天候は変わりやすく、予想外の降雨等も考えられます。防寒具としても使えますので、必要に応じて雨がっぱ等を準備しましょう。雨がっぱは上下に分かれる物が使いやすいです。 <p>2. 事故に備えての対応</p> <p>(1) グループに傷病者が出た場合、誰が、どのように対応するかを事前に決めておきます。その際、参加者には「各ポイントにいる指導者に伝える」等の具体的な連絡方法を指示しておくことが大切です。</p> <p>(2) 万が一の事故に備え、諫早自然の家、学校、保護者等の関係者への連絡方法を決めておきます。</p> <p>(3) 引率者は、スタート時、チェックポイント通過時、ゴール時等、絶えず人員の確認と参加者の健康状態を確認することが大切です。</p>
<p>自然の家来所前に指導していただきたいこと</p>	<p>(1) 体調を万全にして臨む。</p> <p>(2) 出発前に服装、装備などをお互いに点検する。</p> <p>(3) 活動中は、グループ全員がまとまって活動すること。</p> <p>① 単独行動は、けが等の原因になります。また、体調が悪くなる、けがをするなどして動けなくなった場合に、引率者との連絡が困難になります。</p> <p>② 万が一誰かがけがをしたり、具合が悪くなったり、動けなくなったときは、ただちに近くの仲間や引率者に知らせ、助けを求めるようにします。その際、知らせに行く人も2人以上で行動し、単独行動を避けます。</p> <p>(4) 身の安全を守る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蛇や蜂等の危険動物を発見したら、全員に注意を喚起する。 ・天候が変わり、雷の音が聞こえた場合は、すぐに戻るか、建物の中に入るようにします。 <p>(5) 水分補給は、少量ずつこまめに行う（のどが渇く前に飲む）。</p> <p>(6) 防寒着をこまめに脱いだり着たりして、体温調節を心がける。</p> <p>(7) 帰着時はきちんと靴の泥を落とす。</p>
<p>活動中止等の基準</p>	<p>(1) 落雷の危険がある</p> <p>〈基準〉・雷警報が発令されている。または、雷鳴が聞こえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雷注意報発令中で、気象レーダーで雷雲の発生が見られる。 ・自然の家事務室のサンダーメーターが作動した際には、中止する。 <p>(2) 大雨の危険がある</p> <p>〈基準〉・大雨警報、洪水警報が発令されている。</p> <p>※注意報発令時は自然の家と実施団体で相談の上、判断する。</p> <p>(3) 濃い霧が発生している</p> <p>〈基準〉・霧が出ているときは自然の家と実施団体で相談の上、判断する。</p> <p>※実施に不安がある場合は、遠慮せず事務室に相談にお越しくください。</p>